

令和3年度の史跡等の整備について

PROJECTS CONCERNING THE PRESERVATION AND UTILIZATION OF DESIGNATED MONUMENTS AND SITES IN FY2021

中井 將胤・小野 友記子・岩井 浩介・玉川 元氣（文化庁文化資源活用課）

NAKAI MASATSUGU/ONO YUKIKO/IWAI KOUSUKE/TAMAGAWA MOTOKI
(AGENCY FOR CULTURAL AFFAIRS)

1. はじめに

国指定の史跡・名勝・天然記念物等（以下、「史跡等」とする。）の整備に関して令和3年度に文化庁が実施した補助事業には、史跡等の保存と活用を図ることを目的とした「歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業（以下、「総合活用整備事業」とする。）」がある。この事業は、平成27年度から施行された補助事業であり、平成26年度まで実施された「史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備事業」と「地域の特性を活かした史跡等総合活用支援推進事業」を統合した補助事業である。なお、令和2年度からは、特に保護に際して慎重な対応が必要となる石垣や古墳石室の測量及び記録作成に対する補助事業である「石垣等調査事業」が追加された。

また、令和2年度からは、自然災害等から文化財を守るための防災対策を講じる「重要文化財等防災施設整備事業（以下、「防災施設事業」とする。）」の補助対象として史跡等が追加されている。

令和3年度に上記2つの補助事業で実施された事業は553件である。この中に含まれている災害復旧事業では、平成28年4月発災の熊本震災に伴う熊本城跡等の復旧整備、さらに過年度の豪雨災害等に伴う復旧も多数実施されている。

以下、史跡等について、令和3年度に実施された幾つかの事業について概要等を紹介したい。

2. 保存を目的とした整備事業

本項では保存を目的とした整備事業について紹介する。平成26年度に文化庁が報告した『史跡等・重要文

化的景観のマネジメント支援事業報告書』では、保存活用計画及び整備基本計画等の計画策定が重要であることが示された。これを受け、総合活用整備事業では整備基本計画策定を補助対象としており、近年では計画策定事業の件数が増加傾向にある。

【整備基本計画策定】

西南戦争遺跡（熊本県熊本市・玉東町）は明治10年（1877）、九州中南部一帯を舞台に行われた国内最大・最後の内戦に関わる遺跡である。田原坂や横平山、半高山・吉次峠など、両軍が築いた陣地や台場などが指定されている。

玉東町では令和3年度に史跡整備や公開活用の具体的な運用の方法を示すため整備基本計画を策定した。計画では、戦跡である本史跡を「知って学ぶ」ことから平和や鎮魂への「想い」へ繋げる過程の構築を整備の基本理念として掲げ、広範に点在する史跡の構成要素間の回遊性やつながりを強化する整備方針が示された。

策定にあたっては同計画策定委員会での審議と併せて、町民参加の取り組みとしてポスターディスカッションが実施された。

【情報提供】

久井・矢野の岩海（広島県三原市・府中市）は、傾斜のゆるい三条の谷間にそって、直径1～7mの巨岩・怪岩が重なる天然記念物である。花崗岩が風化侵食を受け、風化物である真砂土等が流出し、谷底に巨岩礫が残置されたものである。

三原市では、平成30年度から令和3年度に、久井の岩海の価値や魅力をより多くの市民が享受できるよう、指定地内に丸太階段、説明板等を整備した。導入の説明板で提示された岩海に関する複数の設問に対応する解説板を、指定地内に計画的に配置し、これらを読み



図1 久井・矢野の岩海 説明板を活用したガイド

進むことにより、岩海について来訪者の理解が深まるような工夫がなされている。

【石垣整備】

津軽氏城跡弘前城跡（青森県弘前市）は、津軽氏遠祖の居城である種里城跡、弘前藩粗津軽為信の居城である堀越城跡とともに、津軽氏城跡として指定された史跡である。弘前藩二代藩主信枚が築城した弘前城跡は三重の濠で囲まれた惣構がほぼ残存しており、本丸には高石垣が構築されるなど、近世城郭の規模を示すものとして価値が高い。

本丸石垣の孕みが進んだため、平成24年より石垣修理事業が本格化している。令和3年度は、本丸東面北側石垣の修理を行い、石垣の積み直し作業を実施した。

【石垣調査】

大坂城跡（大阪府大阪市）は、天正11年（1583）の豊臣秀吉による築城以後、大坂夏の陣によって落城するまで豊臣家の居城として機能した。その後の徳川家により改修されており、現存の石垣等はその再建時の

所産となる。

大阪市では、自然災害発生時の迅速な復旧、並びに予防保全を図るため、ドローン等の最先端技術を用いた石垣の測量データ作成を開始している。

先島諸島火番盛（沖縄県宮古島市・石垣市・多良間村・竹富町・与那国町）は鎖国体制下の1644年に、薩摩藩支配下の琉球王府によって設置された、海上交通の監視・通報（烽火）機能を担った遠見番所跡群である。対外関係と鎖国体制の完成を示す遺跡として重要であり、宮古八重山地域に所在する18箇所が指定されている。

竹富町では、竹富島所在の火番盛（小城盛）について、レーザー測量により現状を記録するとともに、修理を行う際の基礎資料となる石積み様相及び石積みの動きを確認するための定点観測を実施した。

【防災施設整備】

中房温泉の膠状珪酸および珪華（長野県安曇野市）は、中房温泉特有の地質と温泉・噴気により形成された堆積物の周辺一体を指定した天然記念物である。

令和3年3月、指定地内で未知の源泉が確認され、そこから湧出する温泉により表土が流出したことにより、その表土によって支持されていた岩塊が不安定な状況となった。岩塊が崩落することにより、大弾正地区（特別エリア）のき損が危惧される状況であったことから、ワイヤーネットとアンカーにより岩塊を現位置に固定する措置を行った。



図2 津軽氏城跡弘前城跡 石垣の積み直し



図3 先島諸島火番盛（小城盛） 石垣の測量状況

3. 活用を目的とした整備

本項では活用を目的とした整備事業について紹介する。近年、観光や地域活性化のための活用への期待の高まりもあり、全国的に本事業は増加傾向にある。

【ガイダンス施設】

ガランドヤ古墳（大分県日田市）は、時期の前後する二基の古墳が近接して存在し、壁画や多数の副葬品を有するなど、注目すべき特色を有する史跡である。

日田市では市民の歴史学習と公園としての活用を推進する施設として令和2・3年度にガイダンス棟の建築・展示工事を実施した。ガイダンス棟展示室には展示パネル、展示模型、解説動画、石室VR、多言語等WiFiコンテンツが整備され、地域の貴重な歴史的資産として史跡を後世に保存・継承するとともに、来訪者がその価値について理解を深めることができるようにしている。

【遺構保護展示施設】

牽牛子塚古墳・越塚御門古墳（奈良県明日香村）のうち、牽牛子塚古墳は対辺長22mの八角形墳で、凝灰岩切石を敷き詰めた石敷きが見つかっている。隣接する越塚御門古墳は石英閃緑岩を使用した横口式石槨をもった方墳である。八角形墳は大王墓とされているとともに、埋葬施設や墳丘の位置が日本書紀の記述とも符合する点で、極めて貴重な古墳である。

明日香村では、平成25年度に「牽牛子塚古墳・越塚御門古墳整備基本構想」を策定し、史跡地内の公有化や整備基本設計、実施設計等を進めた。平成30年度か



図4 ガランドヤ古墳 ガイダンス施設
(提供：日田市教育委員会文化財保護課)



図5 牽牛子塚古墳 石室覆屋の整備

ら令和2年度に整備工事を実施し、遺構の保護を目的として、発掘調査成果に基づく当時の墳丘形状を模した覆屋を設置した。覆屋内では、VR等の映像を用いて、被葬者が活躍した時代や築造の歴史的背景について来訪者の理解が進むような展示を行っている。

【便益施設】

七尾城跡（石川県七尾市）は、室町期の能登守護畠山氏の居城として築かれた山城である。16世紀初頭に居城となり、天正5（1577）年、上杉謙信により落城した。山麓に広がる城下遺構を含む城域は、東西約1km、南北約2.5kmに及び、北陸最大級の規模を誇る堅固な中世城郭である。

七尾市では来訪者の利便性向上のため、前年度に山麓の史跡指定地の近接地（七尾城登山口）に整備した駐車場に、休憩・案内・トイレ等の機能を備えた便益施設を整備した。施設は木造平屋建てで、トイレは男子用、女子用、多目的トイレを設置、併せて史跡の案内パネルを展示した休憩スペースとボランティアガイ



図6 七尾城跡 便益施設の整備

ド待機室を備えている。

4. 災害復旧等について

近年多発する災害の復旧整備は、最優先して実施すべき事業として取り組んでいる。令和3年度の実施件数は63件であり、同年度に発災した関東地方以西を中心とする7月や8月の豪雨等による被害に伴う災害復旧が実施されている。

また、令和3年度も前年度と同様に新型コロナウイルス感染症の影響により収入減となった事業者を対象とした、補助率加算の措置が行われた。

【熊本地震】

平成28年4月に発生した熊本地震関係の復旧事業として、令和3年度は被災古墳や、熊本城跡石垣復旧に係る事業等が行われた。

多数の石垣が被害を受けた熊本城跡では、発災直後から平成28年度末までに、災害緊急対応、文化財保全措置、復旧基本方針策定の順に実施され、平成29年度には復旧基本計画の策定を行った。

復旧基本方針は、復興のシンボルとして天守閣の早期復旧、石垣等の文化財価値を損なわない復旧、復旧過程の段階的公開、耐震化など安全対策の実施検討等が定められており、復旧事業期間は概ね20年とされた。復旧基本計画は、上記方針を具体化したもので、復旧の優先順位や、耐震補強及び段階的公開の基本的考え方を定めている。

令和3年度の主な事業としては、石垣復旧設計、石垣解体修理に伴う測量のほか、崩落石垣石材回収工事、飯田丸五階櫓・平櫓の石垣復旧工事などを実施した。

【令和3年7・8月豪雨】

令和3年7・8月に日本各地で発生した豪雨では、多くの文化財が被災した。特に、大雨による法面崩壊や石垣崩落、倒木等の被害が目立っている。令和3年度は20件の事業が行われた。

【平成30年7月西日本豪雨】

丸亀城跡（香川県丸亀市）は、平成30年7月西日本豪雨及び続く台風の影響により、史跡範囲内において土砂・石垣の崩落が発生した。これを受け丸亀市では、

平成30～31年度にかけて崩落した法面の石垣撤去工、保護工・排水工等の応急対策工事を実施し、平成31年度より南西部崩落石垣の本復旧工事を進めている。令和3年度は防災設備事業として帯曲輪石垣の解体・崩落石材回収工事、石材調査、三の丸石垣復旧実施設計等を実施した。

【平成30年台風7号】

今帰仁城跡附シイナ城跡（沖縄県今帰仁村）は、沖縄本島の本部半島北東部標高90～100m前後の古生期石灰岩の上に営まれた沖縄グスク時代の城跡である。

平成30年の台風7号で主郭城壁の石垣が崩落するなどの被害を受けた。令和3年度には主郭東側城壁石垣について、石垣石材を積み直す修理工事を実施した。

【新型コロナウイルス感染症の影響による収入額の減少に係る文化財補助金の補助率について】

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、前年度と比べ大幅に収入額減となった地方公共団体以外の事業者を対象に補助率加算の措置を行ったもので、64件の事業に対して実施した。

*図1～4、6については各市町より写真提供



図7 今帰仁城跡附シイナ城跡 主郭石垣の復旧工事